

2013 労災かわらばん —春号—

Vol.36 発行日／平成25年3月7日 編集／釧路労災病院新聞局

地域医療支援病院について

医事課長 小酒部 光謙

地域医療支援病院

平成21年の釧路医師会病院の閉院以来、この釧路地域では地域医療の中心的役割を担う地域医療支援病院がありませんでした。当院は、病気になることも身近な地域で安心して医療を受けられるように、地域の先生方との医療連携を進めており、この取り組みが認められ、平成24年10月26日付で地域医療支援病院として北海道より承認されました。

地域医療支援病院とは

今までは、大きな病院に行けばほとんどの診療科が揃っていて、そこに行けば全ての病気やケガ等の治療ができる「病院完結型」でした。しかし「病院完結型」の弊害として、大きな病院では病状の程度に関わらず、多くの患者さまが受診されていた結果、待ち時間の問題や、大きな病院では様々な検査が行われ、しかも、受診される患者さまの状態が判らないため、慎重に診察するあまり、検査等が多くなり、治療費が高くなる等の課題がありました。これらを解消するために、国では地域での医療連携を進めることによって、地域で医療を完結するという「地域完結型」を推進しています。つまり、病院と診療所が役割を分担し、地域の医療機関全体で大きな病院のような機能を持つようにしようということで、地域全体での医療の質の向上と効率化を図り、医療資源を有効に活用しようというものです。この地域医療の中心的役割を担うのが「地域医療支援病院」です。

地域医療支援病院としての役割

地域医療支援病院は、かかりつけ医を支援し、地域医療の充実を図ることを目的としており、具体

的な役割は大きく4つあります。

- (1) 病院や診療所から紹介された患者さまに対する医療の提供（紹介）や、必要な医療を提供した患者さまに対する、紹介元医療機関やその他適切な医療機関への紹介（逆紹介）
- (2) 病院の設備や機器等を地域の先生方や医療従事者と共同利用
- (3) 救急医療の提供
- (4) 地域の医療従事者の質の向上を図るための研修等の実施

当院では継続性のある医療を提供できるように、地域の先生方からの紹介、地域の先生方への逆紹介を推進しており、「地域完結型」の医療連携強化を目指しています。また、入院病棟には「開放病床」があり、登録いただいている地域の先生方と一緒に診療ができるようになっています。さらに地域全体の医療水準の向上を図るために、地域の医療従事者に対する研修会や講演会などを実施しています。

今後は地域の各代表の方々からなる「地域医療支援病院運営委員会」で、ご意見等を賜り、地域における医療ニーズに応え、釧路地域の更なる医療の発展に努めていきたいと考えております。



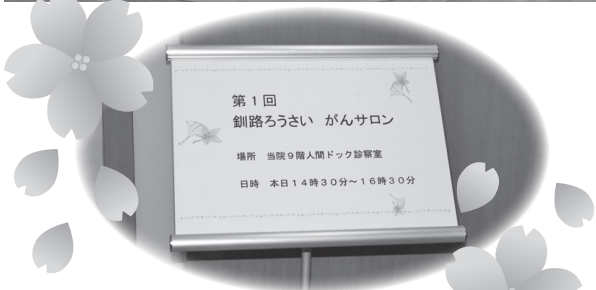
院内がんサロンの開設について

看護師 門脇 郁美

我が国において、がんは昭和56年から死亡原因の第1位となり、罹患率も増加傾向にあります。がん治療の高度化やがん患者と家族のニーズの複雑化・多様化を背景として、入院治療だけでなく外来治療・在宅療養している患者も増加しており、患者と家族は様々な不安や悩み、思いを抱えながら治療や生活を続けています。中には、胸の内を表出する機会や相手がないままにすごしている方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような思いをもつ患者と家族が、「自分ひとりじゃない」と思える場、気軽に語り合える癒しの場、学びの場として、がんサロンは広まっています。地域でがん診療を中心に行う「がん診療連携拠点病院」には、「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所を設けることが望ましい」という基準があり、徐々にがんサロンの設置が進んできている社会的背景があります。

当院では、院内外のがん患者と家族、がん患者団体が情報交換や交流を図る場を提供することを目的として、平成24年10月より釧路地域初の院内型がんサロンを開設しました。リーフレットやポスター、院内テレビモニター、病院ホームページで情報発信し、平成24年度は月1回の2時間程度、語りや情報交換の場を提供しています。

具体的には、一回につき4～8名の院内外の患者・家族の参加がありました。



中には、何度も利用している方や、子どもと一緒に参加する方、遺族もいらっしやいます。まずは、参加者が輪になって座り、自己紹介から始まります。内容は自由なのですが、病名や病期、治療経過、自覚症状、生活状況、思い、疑問、参加動機など、ほとんどの参加者が感情と共に具体的な内容を話されています。溢れ出るという表現が的確かもしれません。自己紹介の後は、参加者同士で思いのままに、飲み物や飴を飲食しながらのお話しタイムです。時に真顔、時に涙、時に笑顔で、他者の話に耳を傾け、見解や思いを表出し合い、情報を共有しながらすごしていってらっしゃいます。今後は、患者と家族のニーズに応じて開催回数を増やし、語りや情報交換の場は提供し続けながら、学習会や物作り、イベント等も開催していきたいと考えています。近い将来、患者と家族が主体的にがんサロン運営に参画し病院は後方支援する体制をとることができれば、より地域に根づくニーズに応じたがんサロンに発展するのではないかと思います。課題は沢山ありますが、がんサロンを開設し、運営し続けていくことは、がん患者・家族、地域、医療者にとって、とても意味深く大切な歩みであると感じています。がん患者と家族が利用できる社会資源の一つとして、地域密着型のがんサロンを目指し、一步一步を大切に今後